

問題解決に向けての行為の決め方を学ぶ社会科学習

— 第5学年「これからの工業と環境」の実践をもとにして—

松田 芳明

1. はじめに

人々は、様々な立場の役割を担い、多種多様な問題を解決しながら生活している。問題が、自分あるいはその時代・社会にとって切実で重大な場合もあれば、そうでない場合もある。問題の解決にあたっては、ある特定の立場や社会の視点から見た最善の解決方法になっている場合もありうる。

国際化・情報化・高齢化・地球環境の悪化など子どもたちを取り巻く社会が急激に変化している現在、様々な問題状況に遭遇することが予想される。直面した問題を解決していくためには、「何が問題なのか。どの立場からの問題解決に向けてのアプローチなのか。解決方法は、現在あるいは将来にわたってどんな結果をまねくことになるのか。」などが十分に吟味される必要がある。

そこで、社会科授業では、相反する立場の考えのよさと問題点を明らかにして、合理的に考えながら最善の解決策を決めることのできる力を育むことが大切であると考え。また、学習することへの意味を見だし、過去の事象からたくさんことを学び取り、現在や未来の社会に向けて自分の考えを発信しようとする態度を育むことも大切であろう。

このような力や態度の育成をめざすことで、子どもたちは、これからの社会のあり方についての自分なりのイメージをふくらませるとともに、ものの見方・考え方を深めることができると考える。

(1) 問題解決に向けての行為の決め方を学び取った子ども像

- 様々な立場の人々の行為の決定にかかわる考え方や背景をさぐるようとする子ども
- 行為の決定者になりきって、実現可能な行動のしかたとその結果を考えることのできる子ども
- 行為の決定にかかわるよさと問題点を明らかにして、自分なりの考えをはっきりと言える子ども
- 共生の視点で社会を見つめ、社会のあり方についての自分なりの思いをもつことのできる子ども
- 資料収集や資料の読みとりができ、資料から気づきや疑問を出すことのできる子ども

(2) 問題解決に向けての行為の決め方にかかわる支援のあり方

- 社会的論争問題のような賛否を問う学習問題の設定
- 賛否にかかわるそれぞれの考え方のよさと問題点の整理
- 具体的な事例や資料をもとにした問題状況のイメージ化
- 行為決定者の立場と行為結果の明確化
- 現在の社会を見つめ、過去の社会的事象から学び取り、未来のあり方を考える場の設定

2 単元の概要と研究の視点

(1) 単元の概要

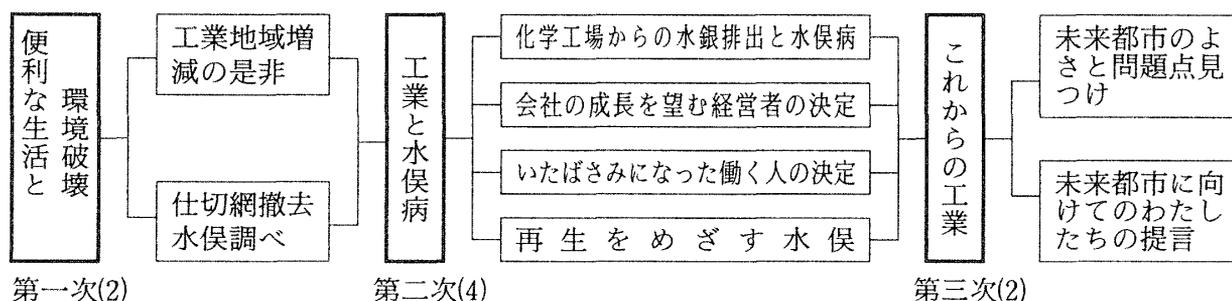
本単元「これからの工業と環境」は、大単元「わたしたちの生活と工業生産」の最終単元に位置づく学習である。私たちの生活は、物質的に豊かで便利になった反面、地球環境の悪化などの社会問題を引き起こした。解決策の行為の決め方を学ぶことができるように、現代社会のよさと問題点を明らかにして、過去の事例をよりどころにして、将来に向けての社会のあり方を考える視点をえるというような単元を構成した。まず工業地域が増え続けることについてのよさと問題点を話し合い、次に過去の典型的な公害の事例である水俣地域での環境破壊の様子と再生に向けての取り組みなどを通して行為の決定にかかわる見方・考え方を学び取り、最後に未来都市の様子とその生活についてのよさと問題点について話し合うことにした。

指導目標、学習の展開および学習素材は、次の通りである。

① 指導目標

- 1 これからの工業と環境について、自分なりの考えをもち、意欲的に取り組むことができるようにする。
- 2 公害病の被害にあった人々の苦しみに共感するとともに、解決に向けての様々な取り組みを理解しながら、人や環境にやさしい工業の大切さに気づくことができるようにする。
- 3 考えの根拠を明らかにするために、基礎的な資料を効果的に活用できるようにする。

② 指導内容と計画



本単元までの学習において、子どもたちは、生産過程における人々の努力と工夫、工場の集中化、道路交通網の整備などによって、便利な生活が成り立っているに気づいている。また、国語科「一秒が一年をこわす」や家庭科「環境問題とわたしたちの生活」の学習で、環境問題の現状や原因を追究したり、自分の生活を見つめたりしている。本単元では、具体的な事例を通して、様々な立場にある人々の思いとその背景を考え合い、解決に向けてのよりよい決定ができるような力を育みたい。

③ 学習素材

学習素材は、特に過去の典型的な公害の事例である水俣地域での環境破壊の様子とその再生に向けての取り組みに求めた。当地域は、良好な漁場に恵まれていたが、明治の終わりから、現チッソの前身である化学会社を中心に企業城下町として発展した。また、化学肥料、塩化ビニールなどの製品は、戦後も日本の高度経済成長を支えるの一つになっていた。しかし、製品の製造にあたっては、有害なメチル水銀が副生され、1966（昭和41）年まで、ほとんど無処理のまま海に排出されていた。その結果、メチル水銀のたまった魚や貝を食べた何万という人々が、視野狭窄、運動失調、聴力障害などの病気になったり、なくなったりするなどの被害にあった。患者達の救済の願いは、市民運動へと展開し、幾多の苦難のすえ、裁判で勝訴した。この出来事を生かして、水俣地域の人々や企業・行政は、一丸となって水俣の再生に尽力するとともに、将来の指針となる環境モデル都市としての取り組みを社会全体に向かって発信している。この事例は、1997年の仕切網撤去を機会に再度マスコミに取り上げられるなどタイムリーな事例であり、現在の産業廃棄物処理の問題を考える視点になる学習素材でもある。また、インターネットを活用して資料を収集しやすくなっている。

子どもたちは、インターネット・図書・新聞などを活用して水俣や水俣病についての情報を収集しながら、問題状況を具体的にイメージし、当時の様々な人々の立場の違いに気づくことができるであろう。そして、過去の決定過程をあたかもシミュレーションするかのように、ある立場に立った行為の決定者になりきって、当時の背景を加味しながら実現可能な行動の仕方を考え、その決定のよさと問題点を明らかにしていく。この話し合いの過程で、子どもたちは、他者の考えを受け入れながら、今後の社会のあり方についての自分なりの思いや考えをもつことができると考えた。

(2) 研究仮説と学習指導案

ある立場に立った行為決定者になりきり、それぞれの考え方や背景をさぐっていく場をもうけるならば、問題解決に向けての行為の決め方を学び取ることができるであろう。

① 会社の成長を望む経営者の決定

私たちの生活を便利にした塩化ビニールの製造と水銀の排出にともなう水俣病の発生にかかわって、経営者は自ら行為を決定した。そのもとになる考え方や背景をさぐっていく。原因を知った経営者がとることのできる可能性ある行動を考え合いながら、被害者の救済を中心にすえた考えなのか、それとも会社の発展のみを中心にすえた考えなのか視点を明らかにしていく。そして、実際の決定には、わたしたちの物質的な豊かさと被害者の軽視などの要因がかかわっており、これらの要因についてのその子なりの考えが明らかになるように支援していきたい。

○学習指導案

本時の目標

便利さを求める社会と公害病の被害を拡大させた経営者の決定とのかかわりに気づくことができる。

準備

アセトアルデヒドの生産量、水俣病の被害拡大にかかわる新聞記事、水俣の拡大地図、工業ののびのグラフ、高度経済成長前の生活様式を表す写真、

評価の観点

意欲・態度	チッソの経営者に対する自分なりの考えを明らかにしようとしている。
思考・判断	いろいろな問題状況に応じた経営者の決定内容を考えることができる。
技能・表現	考えの根拠を明らかにするために、資料を効果的に活用できる。
知識・理解	便利さを求める社会と公害病とのかかわりに気づくことができる。

学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
<p>1 原因を知った経営者の考えられうる行動のとりかたを考え合う。</p> <p>○ 被害者の救済を中心にすえた考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水銀を流すことをやめた。 ・ 水銀を取り除く装置を考えた。 ・ 水銀を使わない方法を考えた。 ・ 患者の救済方法を考えた。 ・ 化学製品の製造をやめた。 <p>○ 会社の発展を中心にすえた考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水銀を流し続けた。 ・ 自分たちが原因でないと言い通した。 ・ 化学製品をどんどん製造した。 	<p>1 経営者の決定の視点が明確になるように、以下の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を集約する段階で、被害者の救済を中心にすえた考えと会社の発展を中心にすえた考えに整理する。 ・ 水銀の排出をやめた、やめなかったなどのように、相反する行為を明らかにしていく。 ・ 水銀を含んだ魚の飲食によって、水俣病が発生したこと、水俣病の被害の様子と被害の分布をおさえる。 ・ チッソは日本初のビニール工場であつた私たちの生活を便利で快適なものにしてきたことをおさえる。
<p>2 水銀の排出をやめていない事実を確かめ、被害拡大の様子や高度経済成長の様子をつかむ。</p> <p>○ 被害の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の20%に神経症状の様子が現れている。 ・ 新潟県で第二水俣が発生している。 ・ 工場は何も対策を練っていない。 ・ 大量の水銀が水俣湾一体に沈殿したままになっている。 <p>○ 高度経済成長の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の工業は急速にのびている。 ・ 衣食住が急激に豊かになった。 	<p>2 被害拡大の様子と高度経済成長の様子をつかむことができるように、以下の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水銀の排出が続いていることを、製品の間接物質であるアセトアルデヒドの生産量をもとに伝える。 ・ 水俣病の被害拡大の様子や日本の工業ののび、生活様式の変化がわかる資料（新聞・グラフ・写真）を丸ごと提示して、経営者の決定は、わたしたちの物質的な豊かさと深く関わっていることに気づくことができるようにする。
<p>3 経営者の決定についての自分の考えを明らかにする。</p> <p>○ 成長より被害者救済の方が大切だ。</p> <p>○ 被害者を救済しながら成長したい。</p>	<p>3 経営者の決定についての賛成・反対双方のわけを大切にす。個々の考えをもとに、次時に、市民の意識的な変革の大切について学習を進める。</p>

② いたばさみになった働く人々の決定

水俣病の被害の拡大にともない、会社の経営者にしたがって働く人々と解雇を覚悟のうえで会社の経営者に反対しながら働く人々との対立があった。それぞれの人々の考え方や背景をさぐっていく。これらの決定には、企業城下町としての地域の実態と患者の苦しみへの共感、被害の拡大にともなう住民の危機感などの様々な要因がかかわっており、双方の選択が、将来にわたってどんな結果を招くのかを予想し合う。そして、それぞれの決定にかかわる要因についてのその子なりの考えが明らかになるように支援していきたい。

○学習指導案

本時の目標

環境問題での被害の拡大をくいとめるには、市民の意識的な変革が大切であることに気づくことができる。

準備

ストライキの写真、産業別人口、水俣湾の魚水銀値のグラフ、水俣病関係年表、新聞記事、水俣の拡大地図と写真

評価の観点

意欲・態度	水俣で働く人のそれぞれの思いに共感しながら、自分の考えをおし進めようとする。
思考・判断	水俣で働く人のそれぞれの考えの長所と短所をおさえることができる
技能・表現	考えの根拠を明らかにするために、資料を効果的に活用できる。
知識・理解	市民の意識的な変革が、被害の拡大をくいとめることができたことに気づくことができる。

学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け				
<p>1 原因企業で働く人々のとった行動を写真と説明から考え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和34年のできごとである。 ・自分の会社に何を抗議しているのか。 ・会社の経営者にしたがって働く人々と反対して働く人々がいる。 ・働く人どうしがどうして対立しているのだろうか。 ・みんな真剣に考えている。 	<p>1 働く人どうしの対立の様子をとらえやすくするために、以下の支援をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害の拡大にともなって、働く人どうしの対立が激しくなっていることをおさえる。 ・働く人がどこで、どこに抗議しているのかかを明らかにする。 ・水俣病患者の慰霊についてそれぞれの働く人の立場の違いをおさえる。 				
<p>2 経営者の決定に賛成や反対する働く人々のそれぞれの考え方や背景をさぐる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">賛成側</td> <td style="text-align: center;">反対側</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・反対すると職を失ってしまう。 ・他に働くところがない。 ・会社のいいないになるしかない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の苦しみをみすごせない。 ・自分たちも同じ被害にあう。 ・会社のいいないになりたくない </td> </tr> </table>	賛成側	反対側	<ul style="list-style-type: none"> ・反対すると職を失ってしまう。 ・他に働くところがない。 ・会社のいいないになるしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の苦しみをみすごせない。 ・自分たちも同じ被害にあう。 ・会社のいいないになりたくない 	<p>2 それぞれの立場の考えと背景が明らかになるように、以下の点をおさえる</p> <p>◎資料を丸ごと提示した後に、自分の立場を明らかにしていくようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業城下町のためによる会社側への従順的な態度の背景をおさえる。 ・患者達の苦しみと被害の拡大にともなう危機的な状況をおさえる。 ・被害が拡大する前は、対立せず会社側の立場であったことを伝える。
賛成側	反対側				
<ul style="list-style-type: none"> ・反対すると職を失ってしまう。 ・他に働くところがない。 ・会社のいいないになるしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の苦しみをみすごせない。 ・自分たちも同じ被害にあう。 ・会社のいいないになりたくない 				
<p>3 双方の選択の結果を予想し、将来の水俣のあり方を考える。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">賛成側</td> <td style="text-align: center;">反対側</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活が潤う被害が拡大する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 生活が犠牲になる被害をとめられる </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や人どうしのつながりを大切にしていきたい。 	賛成側	反対側	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活が潤う被害が拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> 生活が犠牲になる被害をとめられる 	<p>3 双方の働く人々の判断や行動は異なっていたが、共通の願いをもっていることに気づくことができるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情面と実生活面での判断の難しさに目を向けるようにする。
賛成側	反対側				
<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活が潤う被害が拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> 生活が犠牲になる被害をとめられる 				
<p>4 水俣湾の魚の水銀値の減少をグラフから読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境がとりもどされてよかった。 	<p>4 水俣の人々は、再生をめざしているという事実をつかみ、次時につなげるようにする。</p>				

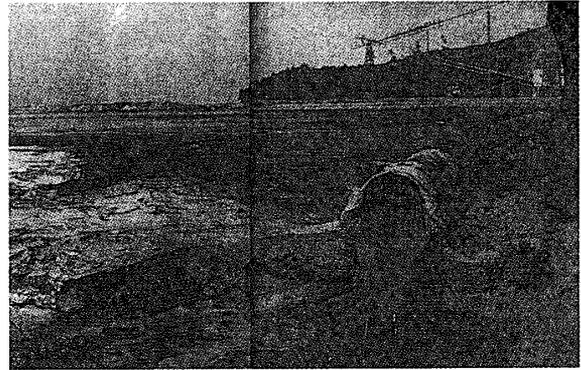
3 学習の実際

(1) 会社の成長を望む経営者の決定

① 水俣病のひ害の様子と原因を知った経営者の考えられうる行動のとりかた

○ひ害者の救済を考えた行動

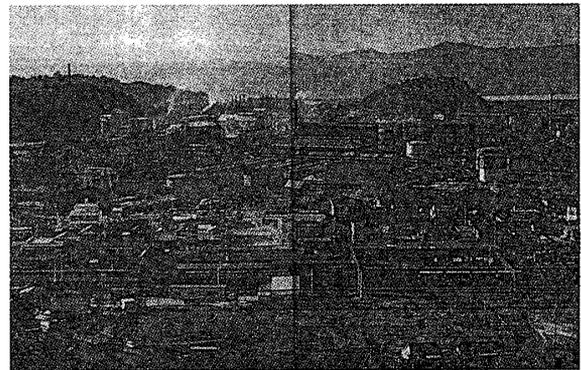
- ・すぐとめることはできないので、少しずつはい出する。・水銀のはい出をとめる。
- ・水銀を使わない方法で、プラスチックをつくる。　　・仕切りあみをする。
- ・水銀をとりのぞくそうちをつくる。
- ・水銀だけを集めて、リサイクルをする。
- ・工場のとりつぶす（かいさん）
- ・魚の中の水銀値を調べる。
- ・ひ害者にほしょう金をはらう。
- ・病院に行く費用をはらう。
- ・会社が魚を買い取る。
- ・もうけたお金を使って、病気で苦しんでいる人のために使う。
- ・かん者にあやまって、それでもだめなら、夜にげをする。



排水 (1)

○会社の発展を考えた行動

- ・はいしゅつを続ける。
- ・新しい製品をつくる。
- ・どんどん生産高をあげる。
- ・新しい場所で生産する。
- ・人口（働き手）をふやす。
- ・市長になる。



チッソ株式会社（昭和47年） (2)

② 水銀の排出をやめなかったことによる影響調べ（統計資料の活用）

- ・ひ害者がかなりふえた。　　・他地域でも水俣病が発生している。
- ・化学工業がどんどん発達し、生活がますます便利になった。

③ 化学工場の経営者の決定についての自分の考え

- ・なぜ、化学工場の経営者の人は、ひ害が出る方をえらんだのだろうか。わたしだったら、ひ害がなるべくでないように、水銀のはい出をとめたりするのにな。
- ・会社の発展だけを考えると、水俣のたくさんの人々が病気になってしまう。水俣市の人々のことを考えずに生産を高めたことはよくないことだと思う。
- ・ひ害者のことを考えると、自分の会社のお金がへり、会社が大変になってしまう。会社の発展を考えると、ひ害者がこまり、ぎゃくに「せきにんをとれ」といわれるし、魚が食べられなくなる。だから、ひ害者のことを第一に考えた方がいいと思う。
- ・もし、会社が発展ばかり考えてそうしているとしたら、わたしは、社長に反対してそれでもだめだったら、会社をやめて市民の反対運動にきょうりょくする。
- ・もう工場をつぶしてプラスチックなどすべてゆにゆうにして、安全だけを考える。
- ・水銀を取りのぞくそうちをつけて、とれた水銀を温度計などに使って、プラスチックをつくれれば、水俣病のひ害はへっただろう。（一時休業）
- ・新しい製品を作る前に、水銀をださないそうちを考えて、よりよい製品をつくる。
- ・ひ害者のことを考えると、経営者は反省だけではすまない。できるだけのことをするべきだ。

(2) いたばさみになった働く人々の決定

① 化学工場で働く人々のとった行動（写真を見ての気づき）

- ・前にはなくなった人の写真がはってあるので、きっとなくなった人のことを思いながら「もう水銀を流すのはやめろ。」と思っていると思う。
- ・抗議集会をするくらいみんな真剣に考えている。
- ・工場の前で帽子をかぶった人がこうぎしている。
- ・働いている人も会社にこうぎしているのならすごいと思う。



ストライキ (3)

② 会社の経営者に反対して働く人々の考え

- ・このままだと、自分も水俣病にかかるかもしれない。
- ・自分たちがこのようなことをおこしたんだから、なんとかしなければならぬ。
- ・みんなのためにプラスチックをつくったが、病人がふえたのはいけない。
- ・自分の会社のために人を殺すことはできない。
- ・会社が水銀を流して、これ以上水俣病の人が増えるのなら会社をやめてもいい。
- ・働く人も水俣市民だ。すてきな水俣にしたい。

③ せんとく結果で予想される水俣の様子

- ・会社の人で市民の反対運動に協力する人がふえてくると思う。
- ・これ以上水俣病にかかる人が少なくなる。
- ・何とか海が生き返りいつものように生活できる。
- ・みんなが住みよい、きれいなところになるかもしれない。
- ・お年寄りや障害を持った人が安心してらせる町になる。
- ・市民の人達に反対されて工場はつぶれることになる。

④ 会社の経営者にしたがって働く人々の考え

- ・水銀を流したと認めると、たくさんのほしょう金をださなければならぬ。もし、会社がとうさんしたら働く所がなくなる。
- ・きつとかん者が気になると思う。だけど、今ここで会社をやめると、いろいろ生活などにも不便してくるだろう。だから、しかたなく今は会社の方にしがっているのだろう。
- ・せつかくプラスチックという新しい物をつくったのに、会社がつぶれてしまったら今までの苦労がだいなしになる。
- ・本当は、このままチッソが水銀を流し続けるのはよくないと思っている。
- ・チッソの会社のおかげで水俣が発展したのではないか。
- ・自分のことだけを考えていた。

⑤ せんとく結果で予想される水俣の様子

- ・水俣病がどんどん広がり自分もなくなる。
- ・海がもつときたなくなり、動物や人が死んでいく。
- ・人が住めなくなってみんながこまってしまう、どうしようもなくなる。
- ・会社は発展していくけど、自分たちの流した水銀で市民を苦しめても、罪悪感がなくなる。

⑥ 化学工場で働く人々の決定についての自分の考え

- ・自分の家族や親せきが水俣病になるおそれがあるので、会社をやめて、市民の反対運動についていきたい。でも、会社をやめたら働くところがなくなるのでこまる。働いている人の気持ちは水俣病が二度と起こらないようにしたいと願っていると思う。
- ・私は経営者に反対して働く人の方が正しいと思う。だって、「科学の進歩も大切だが、それより

人間の命の方が大切」それは、人間が死んでしまったらもう生きられないけど、科学ならもともにもどせると思う。

- ・自分たちが病気を広めたので、自分たちで何とかしようという行動がすごい。また、そんなことをしていたら、お金がもらえなくてくらしがいけないのに、町のしょうらいを考えて反対したのはすばらしい考えだと思いました。
- ・私も大きくなったら働くと思う。その時に自分の会社がチツソが水銀を流していたようなことをしていたら、私も会社をやめるつもりで、経営者に反対する人と一緒のことをすると思う。
- ・自分たちがやったことに責任をもって、水俣病になった人たちを助けるように研究をして、会社を続けられればいいと思いました。

4 考 察

(1) ある立場に立った行為決定者になりきることは、自分の考えを明確にするうえで有効なのか。

水俣病の発生したわけ調べで、「みんなの大切な海に化学物質を流したということは、とてもたいへんなことだと思う。もし、ぼくがチツソの社長ならすぐに停止すると思う。」という感想と、経営者の決定にかかわる学習で、「もし、会社が発展ばかり考えてそうしているとしたら、社長に反対してそれでもだめだったら、会社をやめて市民の反対運動にきょうりょくする。」という感想があった。双方の感想は、「チツソ経営者」や「チツソで働く人」になって自分なりに考えをおし進めている。しかし、その人物のおかれていた背景とは無関係であり、自分の価値基準にしたがって判断している。そこで、決定された背景や考え方について明らかにする必要がある。

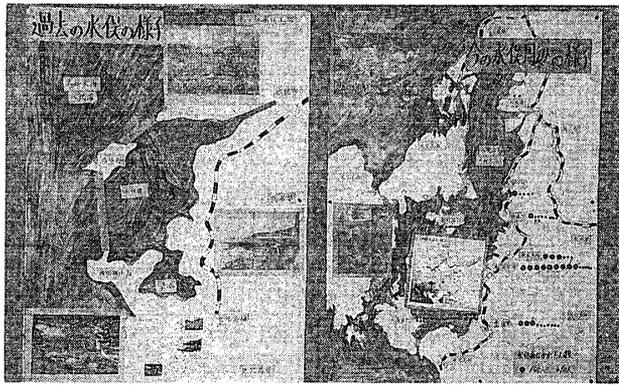
(2) 様々な人々の考え方や背景をさぐることは、決定のしかたを学ぶうえで有効なのか。

チツソ経営者は、水銀の排出と水俣病の発生との因果関係に気づいても、生産額をあげるために大量に水銀を排出した。この行為は、チツソ経営者の個人的な決定というよりも高度経済成長を迎えた当時の経営者一般の決定に近いものと考えられる。また、会社の経営者にしたがって働く人や解雇を覚悟で働く人の存在は、今日の社会にも見受けられる光景である。これらの行為の善悪を判定して、当事者の責任を追及することより、自分がその立場に置かれたら、どの行動が最適なのかをイメージトレーニングすることの方が大切だと考える。

子どもたちは、ある立場の人の考えられうるすべての行動のとりかたを出し合い、その決定による結果を予想したうえで、行為の決定にかかわる自分の考えを明らかにしていった。「ひ害者のことを考えると、自分の会社のお金がへり、会社が大変になってしまう。会社の発展を考えると被害者がこまり、逆にせきにんをとれと言われてしまう。被害者のことを第一に考えた方がよい。」という感想と「新しい製品をつくる前に、水銀を出さないそうちを考えて、よりよい製品をつくる。」という感想は、PL（製造物責任）法にみられるように今日の環境へのとらえ方や人に優しい工業のありかたをめざす考えと共通するところがある。また、行為の決定には、利潤の追求、豊かな生活、患者の救済、生活の安定、生命の尊重などのように、時代や人物の考え方に影響されているとともに、人によって考え方が異なっていることに気づくことができたと考えられる。子どもたちが導き出した行為者の決定についての考えをもとにして、それぞれの考えのよさや問題点を吟味することができれば、もっと多角的な見方をもとにした決定のしかたを学びとることができたであろう。

(3) それぞれの考えや背景をさくっていくための資料は有効だったのか。

考えを深めるためには、当時の様子がイメージでき、考えの根拠になる豊富な資料が必要である。様々な視点から考えが導きだせるように、当時の新聞記事、写真、地図、統計資料など一人ひとりにまるごと提示した。インターネットで「水俣」を検索して関連する情報を収集する子どももいた。活用した資料の表題は、「さかながとれなくなる」「水俣病患者第一号」「身の回りのチツソ製品」「アセトアルデヒド生産と患者数」「日本のいろいろな工業ののび」「昔のくらしの様子」「水俣湾

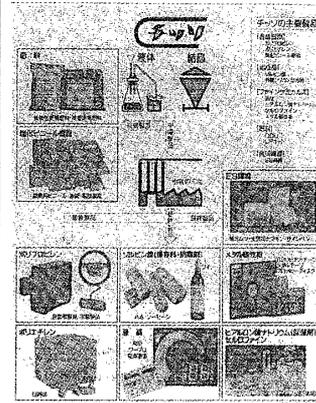


の魚の水銀値の推移」「水俣市の化学工場に関する人口の割合」「水俣病の裁判」「水俣湾埋立地」「水俣の再生」「水俣10の知識」などである。

活用した中国新聞の見出しは、「仕切り網の撤去開始」「20%以上に神経症状」「水俣病予想を越える広がり」「列島包む水銀汚染の恐怖」「水俣湾を網で封鎖」「山一自主廃業を決定7500人どうなる社員の声」「学校に潤い企業城下町」などである。



身の回りのチップ製品



<http://www.fsinet.or.jp/~sashisha/koushoukan/minomawa.htm>

資料を読み取ることのできる時間を学校で十分確保するとともに、資料の量と提示のしかたについての吟味が必要であった。

5 おわりに

本実践では、「〇〇について、賛成ですか。反対ですか。」という発問より、「どんな行動のとり方が考えられますか。」「実際には、どんな行動をとったのでしょうか。」「どうして、そのような行動をとったと思いますか。」「それぞれのよさと問題点は何ですか。」「この決定に対してどう思いますか。」という発問を重視した。断定したり反駁したりする姿勢より、ある一つの事象を様々な立場から多角的に見つめようとする姿勢を大切にしていた。立場を柔軟に置き換えたり他者の意見を尊重する力が育まれたとき、賛否を問う発問を重視していきたい。子どもたちは、ある行為についての賛否を自分なりの視点で明らかにしたうえで、自分の考えの根拠を満たす資料を収集し、討論によって賛否を再吟味し、練られた考えを社会に提言していくかもしれない。子どもたちの実態によって柔軟に授業を設計していきたい。

〈註・参考文献〉

- (1)(2)(3)の写真は、石牟礼道子「不知火海」創樹社 1973年より p80, p100, p157
- 小原友行 「社会科における意思決定」(社会認識教育学会編「社会科教育ハンドブック」明治図書)
- 佐伯 胖 「決め方」の論理 東京大学出版会 1980年
- 環境創造みなまた実行委員会 「水俣病とわたしたち」水俣市 1996年
- 環境創造みなまた実行委員会 「水俣病10の知識」水俣市立水俣病資料館 1994年
- 原田正純 「水俣が映す世界」日本評論者 1989年
- ユージン・スミス 「写真集水俣」三一書房 1991年